

滞在中から知っておきたい日本の教育!

世界13カ国
41エリアに配布中!

FREE

VOL.27

2019 春&夏

帰国 便利帳

Interview

ジョン・カビラさん

海外&帰国子女を
応援する学校紹介 **74校!**

2019年 中学入試結果 **速報!!**

世界で進むSTEM教育
日本ではどうなってるの?

Q&Aで丸わかり!

帰国後の
インター入学
大成功マニュアル

Q 入るための試験はどんな内容なの？

A

書類審査、エッセイを含む筆記試験、面接が基本。英語力が試されます。近年はスクールカウンセラーによる適性検査を実施する学校も増えています。(石塚氏)

どの審査でも高い英語力が必須に

インターの(編)入学試験の3本柱は書類審査、エッセイを含む筆記試験(学科試験、またはコンピューター上で受ける学科のテスト「MAPテスト」、そして面接だ。どの審査でも肝になるのは英語力だという。

「すべての試験で学年相当のネイティブレベルの英語力が必須です。意外と多いのが、書類審査の志望動機欄や面接でインターを志す理由を「海外で磨いた英語力をさらに伸ばしてほしいから」とすること。これはタブーです。なぜなら言語

の授業を除けば、ご存じの通り、インターは英語で学ぶ場所であって、英語を学ぶ場所ではないからです。英語力の判断材料として重視されるのは筆記試験に含まれるエッセイ。エッセイを読めば、その子の全体の英語力がわかると言われています」(石塚氏)

近年は適性検査の実施校も増えている

また石塚氏によると、近年ではこうした3つの試験に加えて、(編)入学後にスムーズな学校生活を送れるかどうかを見るための適性検査を実施する学校も増え

ているという。

「適性検査とは、受験する子どもたちを教室などで自由に過ごさせて、自然な状態での様子を観察したり、子どもと試験官との会話のなかで言葉遣いや本人の家庭での様子、家での教育方針などを把握・考査したりするものです。子どもの精神状態などを総合的に確認するため、主にスクールカウンセラーが担当します」(石塚氏)

次ページからはインター5校に尋ねた(編)入学試験(書類審査、筆記試験、面接)の傾向を列挙。参考にしてみてください。

事例 書類審査

成績表だけで落とされることも…志望理由や校外活動記録も大事

「学校によってまちまちですが、書類とは主に願書、現地の学校での成績表、先生の推薦状などのことを指します。現地の学校での成績表は特に重要視されることが多く、求める基準に達していなければそれだけでお断りされてしまう場合もあります」(石塚氏)

また、願書のなかでカギになるのは志望理由と校外での活動履歴だという。「志望理由が教育理念とマッチしているかは大事です。また、ボランティアなど校外で活躍した場合は高評価につながるケースが多いのできちんと書くようにしましょう」(石塚氏)

Aoba-Japan International School

学年にもよりますが、高学年になればなるほど英語力は必須に。特にG9以上は英語力アップのサポートがないため、サポートなしでカリキュラムについて行ける英語力が最低条件です。その上で成績や推薦状、そして生徒の経験などを見ます。

大阪YMCAインターナショナルスクール
成績表、推薦状、学校歴などをみます。高学年になるほど英語力の有無が影響します。

Christian Academy in Japan

成績がすべてではなく、児童・生徒の個性を尊重して一人として見るため、具体的な指針はあえて設けていません。

COLUMBIA INTERNATIONAL SCHOOL

学校の成績表(教科の評価と教師のコメント)をみます。生徒と保護者から本校を志望する理由も書いていただき、教育方針と照らし合わせます。

学校法人名古屋国際学園(Nagoya International School)

「本校以外に(編)入学先があるかどうか」「本校のミッションや方針を理解しているかどうか」「本校が児童・生徒の将来にとって適しているかどうか」の3点を確かめます。筆記試験などの学力テストを実施しないため、過去2年間の成績表と先生からの推薦状で学力を審査しています。

Aoba-Japan International School

面接時、もしくは後日、英語のアセスメント(Reading, Writing, Speaking and Listening)を行います。

大阪YMCAインターナショナルスクール
英語でリテラシー、数学的思考のアセスメントを行います。

Christian Academy in Japan

幼稚部からG2には学習レディネスのためのテスト、G3からG8にはMAPテストとエッセイ、G9以上には数学とエッセイの試験を行います。

COLUMBIA INTERNATIONAL SCHOOL

エッセイの試験を行います。

学校法人名古屋国際学園(Nagoya International School)

英語力のみ、Reading, Writing, Speaking and Listeningの4技能を審査します。該当学年の授業についていくために、どれほどの英語のサポートが必要かの審査をします(基本的に、日本語を話す生徒はサポートなしで該当学年の授業についていける英語力が必要です)。

事例 筆記試験

エッセイで学年相当の英語力を測定「MAPテスト」を実施する学校も

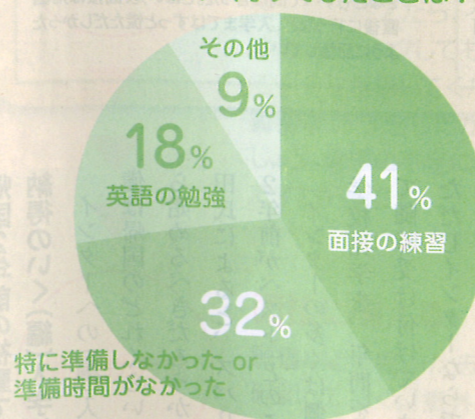
筆記試験を行う学校では、(編)入学する学年相当のEnglishとMathのテストを各1時間程度で行うのが通例だ。

「Englishのカギはエッセイ。同じ言葉を何度も使わない、学年のレベルより稚拙な文章は書かないといったことが大事です」(石塚氏)

筆記試験の代わりに、パソコン上で問題を解くMAPテスト(Measure of Academic Progress。主にMath・Reading・Language Usageの試験)を実施する学校も。世界中のインター生が受けるものなのでスコアを比較しやすく、(編)入学時の学力の判断材料にされやすい。

体験談 我が子の入試準備はこうだった!

(編)入試に向けてしたことは?



現地で学校の勉強に重点を置き、授業にしっかり取り組ませていた。放課後と週末は本人たちの希望でサッカーをやっていたので、補習校や塾などには通わせていなかった。(シンガポールのインターからお子さんたちが中2・高1・高3時に編入学したE・Mさん)

まだ小さかったからが筆記試験などではなく、成績表と英語面接のみだった。面接の練習だけはした。(アメリカの現地校からお子さんが小1時に編入学したM・Cさん)



違いを受け入れる広い視点、積極性を学んだ5年間

まるで未知だった日本で
中学受験を決意

父親の仕事に従って小学校入学前から3年生までの5年間を中国・北京で生活した青山さん。現地では2歳年上の姉と一緒に日本人学校に通い、帰国後は公立小学校に編入した。
「北京での生活は、水や食事などふだんの生活で少



あおやま しょう 青山 遼 さん(14歳)※ 東京都立大学 等々力中学校 3年

し不自由はあったけれど、色々な文化や考え方にふれることができ、とても貴重な経験になりました。世界各国からやってきた人や、現地の中国人の方々と交流の機会も多くて、北京にはのびのびと意見を言い合えるアットホームさがありました。帰国が決まった時には「帰りたくない」と駄々をこねるほど生活を楽しんでいましたね。そのためか、帰国後に通った公立小学校ではストレスを感じることもしばしば。自分と同じような帰国生はほとんどいなかったため、周りの空気を読み、自分を抑えることを学ぶ必要がありました」

中学受験の道を選択したのは小学4年生の時。まずは日能研で勉強を始め、さらにJOBAにも通って帰国生入試の対策に励んだ。「北京にいた頃は小学校の

低学年だったこともあって、受験勉強にはまったく手を付けていませんでした。『中学受験をしよう』と心に決めたのは、2歳年上の姉が帰国後すぐに中学受験に挑戦した姿を見た時。『自分もやってみよう』と思いました。受験方法は、最初は一般入試を考えていたのですが、迷った結果、帰国生として挑戦することに。北京で生活したおかげで、人と話したり、自分の思いを文章で書いたりすることが得意になりました。作文の出来を重視する帰国生入試のほうが、自分の強みを発揮できると気付いたんです」

そして、複数の候補の中から東京都立大学等々力中学校への進学を決めた。「この学校を選んだ理由の一つは、すでに各国・地域からの帰国生が多く学んでいるということでした。実際、互いのバックグラウンドを認め合い、堂々と自分の意見を言い合い、助け合

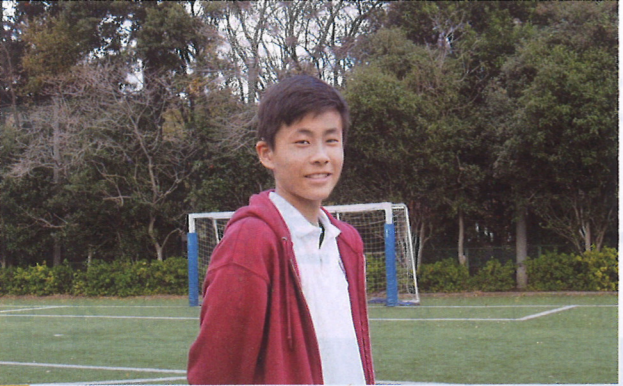
える環境がここにはあります。過ごしやすい環境なので、安心して勉強や部活を頑張れています」

将来の夢は警察官
箱根駅伝の先導を夢見て
入学して3年近く経った今は、勉強はもちろん、部活や生徒会の副会長職でも大活躍中。将来の夢は警察官になることだ。
「帰国してすぐのお正月に、テレビで箱根駅伝を見ました。その時、バイクで選手を先導する警察官にすっかり憧れてしまっていました。学校で剣道部に入部したのも警察官になるためでした。生徒会には1年生の秋に立候補。全校生徒の前での演説など選挙活動も頑張って、入ることができました。勉強もそうでしたが、部活や生徒会活動など、毎日本当に忙しいですが、とても充実しています。これからも、色々なことに積極性にチャレンジしていきたいですね」

夢はプロサッカー選手！学校も練習も楽しい

IB教育を継続して学べる
インターへ編入

半年前の6月下旬、森重くんは家族と共にシンガポールから日本に帰国した。親の仕事の都合で生後5カ月のときに移住。その後、ずっと現地で育ってきたから、帰ってきたという感覚はなかったという。「僕にとってシンガポール



もりしげ えいこう 森重 英威豪 くん(13歳)※ アオバジャパン・インターナショナル スクール G8(中2相当)

は、ホームです。だから、日本行きが決まったときは、正直、イヤでした。日本語に不安もありました。ただ、夏休みには日本に何度も遊びに来ていて、お寿司やラーメンなど日本の食事が美味しかったので、その点は楽しみでした(笑)」

シンガポールでは、2人の兄と共にインターナショナルスクールに通っていた。「アジア圏の生徒が多い学校でした。また、4歳の頃にサッカーを始め、現地の日本人チームで練習していました。学校やサッカーの友だちとは、今でもSNSなどでつながっています」

帰国前年の夏、帰国するかもしれない状況になったため、一時帰国して何校かの学校説明会に参加した。そのひとつが、アオバジャパン・インターナショナルスクールだった。

「この学校を気に入った理由は、校庭が人工芝で広くてサッカーができそうだったことと、説明会の際に先生方はもちろん、生徒たちもみんな笑顔で挨拶してくれたことです。勉強の面では、国際バカロレア(IB)の認定校であること。シンガポールでもIB認定校に通っていたので、継続して学べるからです」

書類選考とスカイプ面接による入試を経て、無事に合格。現在は、2番目の兄と共に通っている。

「友だちはすぐにできました。僕にとって少し難しいのは、日本語の授業です。漢字を書くのが苦手です。ただ、それ以外の授業は英語なので問題ありません。授業は基本的にグループワークで、みんな意見を出し合いながら課題に取り組んでいきます。最初は自分の考えを言えませんでした。が、自然と言えるようになってきました。自分とは違う意見を知ることができるの

で、とても楽しいです」

プロサッカー選手になって海外に住んでみたい
帰国後は、大好きなサッカーを続けている。放課後は学校外のサッカークラブのチームに所属して、練習をする。

「シンガポールでは平日の練習は週1回でしたが、今のチームはほぼ毎日です。また、シンガポールでもチームプレーの大切さは教わっていましたが、日本では組織的に動くという感じで、より厳しく指導されます。でも、そのおかげで、サッカーがもっと面白くなってきました」

新しい環境にも慣れて、毎日が充実しているという森重くん。将来の夢は？
「プロのサッカー選手です。それが無理でも、サッカーに関係する仕事に就きたいです。イングランドのプロリーグのサッカースタイルが好きなので、選手になって住んでみたいな」

海外滞在時の思い出写真



北京のフランス人学校と共同開催したドッジボール大会にて。「色々な国の人とコミュニケーションする機会があって、和気あいあいと楽しく過ごしました。合同で百人一首大会を行ったのもいい思い出です(右奥)

帰国後の学校への入学方法

受験方法 帰国生入試
選考方法 国語、算数、作文(日本語)、面接
受験勉強開始時期 小学校4年の春

親がしてくれたことで感謝すること

帰国前 北京の日本人学校しか知らなかったのですが、帰国して日本の学校に編入するのは特に不安でした。しかし、両親はどんな時でも「大丈夫だよ」と励まし続けてくれました。姉や妹も含め家族全員で支えあえたのにも感謝です。

帰国後 学校選びや塾選びの時には、1つではなく必ずいくつかの選択肢を与えてくれて、そこから私の意思で決めさせてくれました。丁寧にサポートしつつ、私の意見もきちんと尊重してくれたことに、とても感謝しています。

海外滞在時の思い出写真



帰国当日、空港へ向かう途中で父が撮影した。母と僕含め兄弟の写真。「もう最後だな」という気持ちでした。ここは、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイという観光地です。いつかまたシンガポールに行きたいです」

帰国後の学校への入学方法

受験方法 帰国生入試
選考方法 書類選考、面接
受験勉強開始時期 特になし

親がしてくれたことで感謝すること

帰国前 インターに通わせてくれたことで、いろいろな国の子どもと友だちになれたし、英語力もつきました。また、サッカーもやらせてもらえました。誰もが好きなことを続けられるわけではないので、恵まれた環境だと思います。

帰国後 公立の中学校へ通うという選択肢もありましたが、インターに行かせてくれて感謝しています。また、父はサッカー、母はフットサルをしていたので、僕のサッカーの試合を観戦してアドバイスをしてくれるのもありがたいです。

15歳からの高等教育 英語で学ぶボーディングスクール



1・2年次が全寮制で学ぶ白山麓キャンパス



キャンパスには広々としたグラウンドが整備され、スポーツをやりたい生徒たちにも好評だ。授業のほか、様々なアクティビティが行われる。

国際高専の学びを体験しよう!

詳細はHPでお知らせします

学校見学会

2018年に完成した白山麓キャンパスで国際高専ならではのユニークな授業を英語で体験できます。

[内容] 学校紹介、入試説明、奨学金説明、授業体験など

[日程] 6月9日(日)、7月28日(日)、8月25日(日)、9月22日(日)、11月3日(日)

[対象] 中学生、保護者の方 **[会場]** 白山麓キャンパス



サマースクール

国際高専のカリキュラムの中心的な科目である「エンジニアリングデザイン」に3日間取り組み、新しいモノやコトを創り出す楽しさを英語で体験します。

[内容] エンジニアリングデザイン体験、キャンパス見学、白山麓の自然の中でのアクティビティなど

[日程] 8月8日(日)～10日(火) 2泊3日

[対象] 中学生、保護者の方

[会場] 白山麓キャンパス・金沢キャンパス



ICT 学校法人金沢工業大学
国際高等専門学校

金沢キャンパス 石川県金沢市久安2-270 Tel.076-248-1080
白山麓キャンパス 石川県白山市瀬戸辰3-1
www.ict-kanazawa.ac.jp



一人ひとりの可能性と学ぶ意欲を引き出す
国際バカロレア (IB) 一貫校の探究型学習

アオバジャパン・インターナショナルスクールでは、国際バカロレア (IB) の認定校として、児童・生徒の考えや価値観を尊重しながら、自ら学ぶ意欲を支援する教育を実践する。一人ひとりの可能性と潜在能力を引き出す探究型学習について、話を聞いた。

異学年の交流も活発な
アットホームな学風

アオバジャパン・インターナショナルスクール(以下、A-IJIS)は国際バカロレア(以下、IB)の教育を実践する。その教育環境は、様々な国や地域からの帰国生にも適しているのだろうか。

「IB教育は、二つの国のカリ

一人ひとりの可能性と学ぶ意欲を引き出す

アオバジャパン・インターナショナルスクールでは、国際バカロレア (IB) の認定校として、児童・生徒の考えや価値観を尊重しながら、自ら学ぶ意欲を支援する教育を実践する。一人ひとりの可能性と潜在能力を引き出す探究型学習について、話を聞いた。



アオバジャパン・インターナショナルスクール 文部科学省IB教育推進コンソーシアム担当
小澤大心氏

「IB教育は、二つの国のカリキュラムに縛られない国際基準でデザインされており、どの国での学習経験も尊重する、帰国生にとっては、なじみやすい環境といえます。また、本校には学年を超えて交流するアットホームな雰囲気があり、編入生などにもすぐに学校に慣れるようです」と、小澤大心氏は説明する。

フレンドリーな環境は、学年を超えた課外活動もつ理由だろう。例えば、小4〜中2の生徒が参加する「リーダーシップキャンプ」。昨年は二泊三日でキャンプを行い、森林アドベンチャー、ラフティング、トレッキングなどの自然体験活動を行った。

「キャンプでは、異学年混合のグループで活動し、上級生は下級生を手助けし、グループをひっぱる。下級生たちは、自分の気持ちをうまく相手に伝える方法を体験的に学びます。」

また、グループに課された役割を果たすため、生徒たちは話し合い、互いの意見を認め合いながら、方法を模索。途中の振り返りを経てプレゼンをします。こうした活動は、「心を開く人」思いやりのある人」などの、IBの学習者像にも繋がっているのです。

充実のICT環境
IBの探究型学習を

もちろん、クラスルームでも、IBの理念を反映した探究的学習が行われる。「A-IJISでは、生徒それぞれの経験や関心を尊重し、教師は、生徒に学ぶ方法や流れを提示せず、生徒を支援するファシリテーターに徹します。生徒自身がアプローチの仕方でも考え、例えば、「飢餓」がテーマなら、国際的な視点から考える生徒もいれば、自分に身近な生活からアプローチする生徒もいます。」

こうしたA-IJISの探究型学習は、PYP(3〜11歳)教育の段階から始まり、MYP(11〜16歳)では、その成果を学習発表会でプレゼン。DP(16〜18歳)の「課題論文」では、科目やテーマから生徒自身が決め、数学や生物の分野で論文を書く生徒もいる。

充実したICT環境も、探究型の学びをサポートする。幼稚園年中生から小3生まではタブレットを、小4生以降は、ラップトップ型パソコンを一人一台所有している。「生徒は本校オリジナルのアプリケーションを使って、レポートをまとめ、オンライン上で提出するほか、教員への質問や相談もできます。なかには、自分のコンピュータゲームをプログラミングする生徒もいます。」

A-IJISには、真の国際人育成を目指し、一人ひとりの可能性を引き出す教育環境が息づいている。

Aoba-Japan
INTERNATIONAL SCHOOL
www.aobajapan.jp

Hikarigaoka Campus
〒179-0072 東京都練馬区光が丘7-5-1
TEL.+81-3-6904-3102

Meguro Campus
〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-11-5
TEL.+81-3-5428-4488